

# よろこび

日蓮宗 顕聖会

本山 妙徳寺

長春山 本誓寺

## 『よろこび』五十九（幸福とは何かの再考）

貫首 齊藤 日軌

幸福は、捕まえたと思っても、次の瞬間逃げてしまう。捕まえたとたんに、はじめて消えるシャボン玉のようでもある。それは、諸行無常という法のもとに、万物は流転し総ては滅び行き、ひとの心もまた常に変わりゆくからである。故に人の世の幸せは無常といえる。この世界においてどうすれば本当の幸せが得られるか、それには無常でない幸福、つまり人との比較、競争の上にある相対的な価値による幸福ではなく、本当の自分である神の分霊としての幸福である絶対価値の本当の幸せを求めるとよい。それは、神の喜び、神の感動、神の幸福の獲得である。

人は、宇宙の大霊である神なる本佛が分霊し地上に出現したものである。従って人間の本性は仏であり神である。この本当の自分を探求し、本当の自分を生きることが人の道であり、仏道である。本当の自分とは、唯一の本佛の顕現たる真我である。この事を自覚すると、人は一切の苦悩や煩悩から解脱できるようになる。

神の心で祈り、悟り、行う本佛の南無妙法蓮華経を實踐しよう。そのとき常住不滅の幸福は常にあなたとともにある。神なる、自己と凡夫たる自己があなたの中で一体に存在している。日蓮聖人は、「この事を観心本尊抄の中で「所化以て同体」と教示なされている。南無妙法蓮華経と唱え、神なる本当の自分を信じ、本当の自分を生きよう。」



## みおしえ

「心は、遠くに行き一人動き、形体なく、胸の奥の洞窟にひそんでいる。この心を制する人々は、死の束縛からのがれるであろう。（法句経三十七中村元訳）」

この法句は仏がサーバッテイ舎衛城におられたときサンギッタ長老の甥にとかれたものである。この甥は、長老の心が理解できず、還俗しようと思いは出家の先の人生を色々と空想する。そして自分には出た、向かないと考えた。そのことを仏はさとされ、「あなたには案じることはしない、ただ貪瞋痴の束縛から脱すればよいのです」と。そして仏はこの偈を唱えられた。

心は色々空想し、妄想し一人さまよい歩く。心に形はないが肉体の胸の奥に住み、貪、瞋、痴、すなわち、むさぼり、いかり、愚癡から脱することを得れば悟りに入ることが出来る。

## 心の言葉

南無妙法蓮華経と唱え  
貪、瞋、痴を脱し悟りに  
入ろう

